

ブラガのバロック散歩道



カテドラル

ポルトガルの聖母マリアへの信仰の源であるブラガの聖マリアを祭るこの建物は、二千年の歴史を持つこの街を見守ってきました。この建物においても、正当な基盤をもつとともに絶対であることを示すように、バロック様式がそれ以前の建築様式を圧倒しています(H. Wölfflinの記述より)。その作業は、大司教ロドリゴ・ダ・モウラ・テレス(1704年-1728年)の庇護のもと始まり18世紀の終わりまで続きました。



聖ヴィットル教会

新秩序を告げる古典的な構造の建物は、ブラガの聖殉教者へ捧げられた教会です。ルイス・デ・ソウザ(1677年-1690年)の命令のもと改築され、軍事技術士であつたミゲル・デ・ルスコール(17世紀-18世紀)によって設計されました。



サンヴィセンテ教会

ミニニ地方北東部へ導く古代の道が結集する場所に位置し、中世時代の近郊の中心となる教会。聖ヴィットル教会と同様、バロック芸術の到来を意識させる初期の構造が見られる教会です。



ノッサ・セニョーラ・デ・グアダルーペ教会(グアダルーペの聖母マリア教会)

この教会も、大司教ロドリゴ・デ・モウラ・テレスの庇護下にありました。1725年に完成したこの教会は、もとは小さなチャペルのみであったと考えられますが、既存の都市計画に明確に盛り込まれていました。



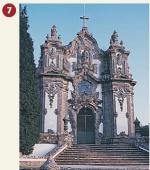
サンタクルス教会

キリストの受難を表現する聖クルス教会は、兄弟愛による献身を表す純粋な建築物と言えます。17世紀初めに着工され、完成したと言われています。



ボン・ジェズス・ド・モンテ

敷地内すべてが一見の価値あります。何よりも、ゴルゴタでのキリストはりつけの場面の再現は、目を見張るものがあります。建築と風景が織り交ざって見事な調和を醸し出しており、花崗岩と斜面の白との色のコントラストは、道中にある多数の壁にある泉からは、清めの水が湧き出す音を感じることができます。頂上に着くと、技師カルロス・アマランテ作であるネオクラシック様式のボン・ジェズス教会(1784年-1857年)が圧巻に立ち誇り、私たちを迎えてくれます。



聖マリア・マダレナ教会

聖マリア・マダレナ教会は、バロック様式とロカイユ装飾が混ざり合った時代の初期の作品で、アルベルトの森にひっそりとたたずんでいます。ブラガの生んだ建築家の中でも最も高潔でヨーロッパで起きたロココ様式傾向で最も力強くオリジナリティあふれる建築家」とR. Smithが評するアンドレ・ソアレス・ダ・シリルバの非凡な表現力によるものです。



ノッサ・セニョーラ・ダ・トレ

聖パウロ広場を背廊に、その前に広がるオープンエアの空間を礼拝堂に見立てた教会です。1755年に起きた大地震からブラガの街を守ったことに対する聖母マリアへのお祈りとして建設されました。



聖ベンティニョ

聖ベンティニョの魅力は、芸術的価値や失われた過去の記憶より、人々の間に根付いた信仰の歴史にあります。毎日、神の助けを願う人々が訪ね、ろうそくに火をともし、賽銭と聖ベネディクトにちなんだ伝統の卵を捧げています。



十字架

十字架のモニュメントは、ブラガの街の風景の特徴です。数あるうち、傑出したカルヴァリエイラス広場と聖ラザロのものを選びました。ティバニス修道院のものに類似する前者は、ルネサンス後期の特徴を表す17世紀の作品ですが、同時にその後頭頭してくる新しい趣向も仄めかすものです。その趣向はダイナミックな統一性をもつ壯麗なバロック様式の聖ラザロの十字架で明確に証明されています。



聖マルコス病院教会

聖ジョアン・マルコスに捧げられた一連のこの建物もまた、様々な建築様式が混ざり合って成立っています。下火になりつつあったロココ様式の影響から解放され、建物中心部が凸状に強調されているところからも分かるように、後期バロック様式の構造が見られます。一方でアーサードを見ると古典的なリーフモチーフを引きします。この建築様式の融合は1787年、技師カルロス・アマランテによって実現しました。



信徒教会

建物と礼拝の会衆教会の建築は、共にアンドレ・ソアレスによるもので、反宗教改革の波がこの街にやってきたことを今に伝える修道院です。ゆっくりと建設が進み、20世紀後半になってようやく完成を見ました。アンドレ・ソアレスの建築物の中でも一番感動的な作品だと言われています(R. Smitsの記述より)。



矯正施設

驚くほどに建設当時の姿を保ち、18世紀の女子矯正施設の雰囲気とその生活様式を今に伝えるとともに、現在に至るまで同じ目的で使用され続けている数少ない歴史的建築物です。



ペニャ・ダ・フランサ修道院

カブシン・フランシスコ修道院の修道女たちのために、敬虔な夫婦が個人的慈悲行為として17世紀後半に建設したこの修道院は、その後無原罪懺悔修道院の手に移ったことにより大司教ロドリゴによって再改装されました。1727年に聖霊されました。



聖ジョゼ障害養護施設

聖ジョゼ障害養護施設は1834年の修道会廃止に伴い解散した聖テレサ修道院の代わりとして、ガスパール・デ・ブラガンサ(1758年-1789年)がドミニコ会修道女であった聖アナに捧げる目的で創建したものです。



ボプロ修道院

16世紀末、修道士アゴスティーニョ・デ・ジエズ(1588年-1609年)の善意により建設されたもので、技師カルロス・アマランテが多くの建築様式を統合するその天賦の才能を発揮した。最初の建築物とと言われています。とにかく建物内部において、マヌエル様式の構造をそのまま保ちながらも、塔のドームなどに特に顕著なフアサードのバロック様式を尊重しつつ、ネオクラシック様式の大膽な特徴も導入しています。



聖フルトオーリ

ブラカラ(ブラガの古称)の北部、モンテリオスの郊外サン・ジェロニモ・デ・リアルに建つ修道院は、ブラカラの司祭であった聖人フルトオーリゆかりの地で、7世紀後半に起つた西ゴート族のキリスト教化の舞台となりました。1728年から大司教ロドリゴにより教会の改築が行われ、前存していた16世紀からの構造に加えてバロック様式初期の特徴である簡素で無地のファサードになっています。



ティバニス修道院

旅人が聖マルティニョ(デ・ティバニス)修道院の方に向かって歩を進めると、カヴァード川に近くにつづつて17世紀に建てられた壮大な建物のシルエットが目に入ります。同時に、寺院と修道院そしてその周いとが混ざり合って調和した風景をつくり出し、時間の旅へと誘ってくれます。



カンボ・ノヴォ

18世紀初めにブラガに導入された新しい都市計画構図を示す一例です。元ガバナンス広場とそれにつながる道はこの区画の成長を確かなものにして、それでは自然に発展した街の成長とは一線を画して、放射線状に広がる道により計画的に発展してきました。



アルカーダ

ルネサンス時代の都市変革計画の賜で、大司教ロドリゴによって改築され(1715年)柱廊が増築されました。ガスパールの統治下、すでに多くの人が集まる場所になっており、加えて福音を説教する風潮が再び高まつたため、ラバの聖母に捧げられた古典的な輪郭のチャペルが建てられました。



格子窓の家

特に市内の街路に見られる17世紀から18世紀にかけてのブラガの市民建築で、格子張りの窓で覆われた正面部が特徴です。これは公的な場と私的な場を分離する目的のもので、修道院で用いられていた窓建築の影響と考えられます。



宮殿広場

宮殿には1790年ポルトガル初の女王によって廃止されたブラガレンス共和国の首府がありました。17世紀の前半には完成していましたが、ロドリゴ大司教によって今日の姿に整えられました。中心にある噴水には貴族的な装飾が施されています。



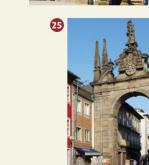
ラグランサ大司教邸宅

大司教ジョゼ・デ・ラグランサ(1741年-1756年)はポルトガル王ジョアン5世の弟にあたり、廷臣で学識がある人物で、邸宅の側面を当時(1751年)の趣向を取り入れて増築しました。アンドレ・ソアレスの活動初期の設計だたとされています。しかしながら、設計全体を分析するにあたっては宮殿とその前にある台形の広場が形成する全体的な枠組みを理解することが大切です。



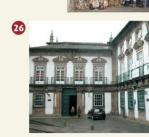
市庁舎

18世紀半ばに行われた市の行政機能再編成の結果、広場の反対側に新しい市庁舎が建てられました。アンドレ・ソアレスの設計によって1753年に着工され、その後北翼が追加されて一世紀後に完成しました。



アルコ・ダ・ポルタ・ノ・ヴァ

ディオゴ・デ・ソウザ(1505年-1532年)の命によって1512年に開かれ以来、ブラガの街を囲んでいた城壁内における人と物資の流通の重要な地点となりました。今日存在する壮大な門は、ガスパールの庇護下1772年から73年にかけて王家の出資によって建てられたものです。



パラシオ・ド・ビスカイニョス

建物自体が17、18世紀の領主が都会に持っていた家の様子と、その日々の生活を垣間見られる博物館になっています。正面部が珍しく字に広がっており、建物と通りの関係を強調することによって明らかにバロック的な都市的規模を表しています。



パラシオ・ド・ラ・イオ

ブラガを照らした本日の意味でバロック建築の光と言える建築物です。明るい華やかさと感動を見るに与え、バロック建築の範例とも言えます。1753年から54年にかけて建設されたこの小宮殿は横に広がる規則正しいバロック様式で、その他はすべてフランス・ドイツの影響を受けた「ソアレス」版のロカイユ様式が支柱の部分を装飾しています。



カザ・ロラン

住居としての用途と豪華さが一緒になった建物。これもアンドレ・ソアレスによってある商人のために1758年から1761年にかけて建設されたものです。



カザ・デ・ヴァレ・フローレス

田舎にある貴族の大邸宅のような広さと農場の家の機能を持ち、都市の影響を受ける地域に統合された領主の家。



七つの泉

ブラガの郊外アレアルというところにある七つの泉は、巧妙な仕組みで水を汲みあげ、誘導して18世紀の街に水を供給していました。

芸術、技術、生活の3つの表現を持ち合わせる七つの泉は、歴史的遺産の価値があると言えるでしょう。

ブラガのバロック散歩道



Câmara Municipal de Braga



Avenida da Liberdade, 1
4710-305 Braga

Telefone: 253 262 550

Fax: 253 613 550

turismo@cm-braga.pt

www.cm-braga.pt

翻訳:坂本 真実子 (ミーノ大学多言語翻訳コミュニケーションセンター・マントリ・サカモト (Mestrando em Tradução e Comunicação Multilingue na Universidade do Minho))

Orientação: Professor Fernando F. Alves

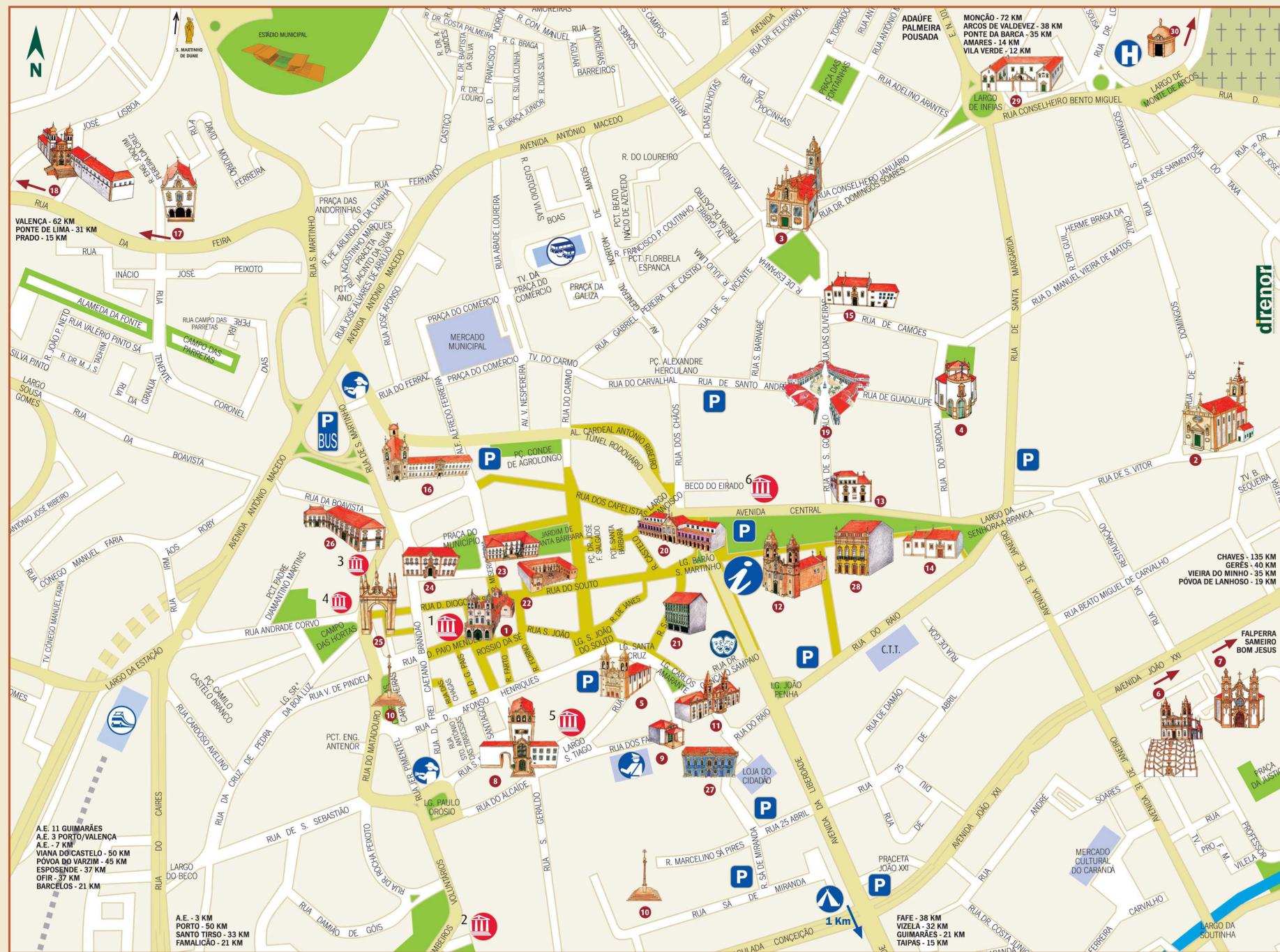
Textos: Miguel Bandeira

Foto da capa: Edifício da Câmara Municipal de Braga

ブラガのバロック散歩道



- 1 Sé Primacial カテドラル
- 2 Igreja de S. Victor 聖ヴィクトル教会
- 3 Igreja de S. Vicente サンヴィセンテ教会
- 4 Igreja de Nª. Sra. de Guadalupe ノッサ・セニョーラ・デ・ガアルーベ教会(アガーダ)への聖母マリア教会
- 5 Igreja de Santa Cruz サンタクルス教会
- 6 Bom Jesus do Monte ボン・ジエズ・ド・モンテ
- 7 Igreja de Santa Maria Madalena 聖マリア・マダレナ教会
- 8 Nossa Senhora da Torre ノッサ・セニョーラ・ダ・トレ
- 9 S. Bentinho 聖ベントニョ
- 10 Cruzeiros 十字架
- 11 Igreja do Hospital de S. Marcos 聖マルコス病院教会
- 12 Igreja dos Congregados 信徒教会
- 13 Convertidas 無修正施設
- 14 Convento da Penha de França ペニャ・ダ・フランサ修道院
- 15 Asilo de S. José 聖ジョゼ障害養護施設
- 16 Convento do Pópulo ポプロ修道院
- 17 S. Frutuoso 聖フルトローズ
- 18 Mosteiro de Tibães ティバインス修道院
- 19 Campo Novo カンポ・ノヴォ
- 20 Arcada アルカーダ
- 21 Casa dos Crivos 格子窓の家
- 22 Largo do Paço 宮殿広場
- 23 Paço Arcebispal dos Braganças ブラガンサ大司教邸宅
- 24 Câmara Municipal 市庁舎
- 25 Arco da Porta Nova アルコ・ダ・ボルタ・ノヴァ
- 26 Palácio dos Biscainhos バシアンホス・ド・ビスカイニョス
- 27 Palácio do Raio パラシオ・ド・ライオ
- 28 Casa Rolão カザ・ロラン
- 29 Casa de Vale Flores カザ・デ・ヴァレ・フロレス
- 30 Sete Fontes 七つの泉



Zona Pedonal
歩行者区域
Vias Principais
主要道路

Estação de Comboios
鉄道駅
Central de Camionagem
バスセンター

Bombeiros
消防署
Polícia
警察
Hospital
病院

博物館・美術館

1 Tesouro Museu da Sé

2 Museu de Arqueologia D. Diogo de Sousa

3 Museu dos Biscainhos

4 Museu da Imagem

5 Museu Pio XII

6 Museu Nogueira da Silva

Parque de Campismo
キャンプ場

Teatro Circo
劇場

Informação Turística
観光案内所

Estádio Municipal
サッカースタジアム